

毎日の学習活動への、新聞活用の一例

～ 地理・世界史・HRにおける実践 ～

長野県長野東高等学校 大倉 宏夫

1. 実践の概要

(1) はじめに

お恥ずかしい話であるが、社会科の教員である私が、「NIE」活動について知るところとなるのは、ほんの1年ほど前のことである。といっても、詳しい内容や実践方法については全くの無知であった。そして昨年、希望用紙が手元に届く。それまでも、もちろん本格的取り組みとは言えないが、新聞記事を利用して授業の導入としたり、あるいは授業の展開部分で用いることはあったので、それではひとつ試みとして申し込んでみよう、という軽い気持ち（失礼ながら）で希望用紙に記入した。

しかしながら学校長あての「認定書」が届き、8社との契約という事態になり、あくまでも個人的好奇心からのスタートであっただけに面食らったが、それでもやるからには気合を入れて取り組もうと決意し、2ヶ月間、できる限り毎日、授業やHRに新聞記事を活用した。以下は、その実践例である。

(2) 実践教科・科目等

① 地理（3学年選択・4単位・2講座）

短大・専門学校・就職の生徒が大部分の講座である。NIE期間中は、「民族と国家」、「世界の人口問題」が学習範囲であったので、それに関連する記事を活用した。

また、学習する単元とは関わりなくとも、世界の国々のタイムリーな出来事や現状、国際関係、日本や長野の地理関連記事があれば、ピックアップして授業に活用した。生徒が、個人レベルの生活・思考だけではなく、地域や自国、国際社会にも視点を置き、グローバルな視野での考察をすることが少しずつでもできるようになれば、というねらいである。

② 世界史（2学年必修・4単位・2講座）

2年生の必修世界史は、近現代史を学習する。NIE期間中は、「1900年代前半の世界…第1次世界大戦前後から中国革命・ロシア革命を経て、第2次世界大戦終結と国連成立まで」が学習範囲であった。イラク情勢をはじめ、現代の国際社会とつながる歴史であるから、多くの新聞記事を活用することができた（むろん、毎日活用するには難点も多いが）。ねらいは、上述の地理同様である。また、世界史が、“あくまでも過去の出来事であって、暗記科目なのだ”という生徒の思いを再考させることもねらいとなる。

③ HR・朝の読書（2年HRクラス・HR 9時45分～、朝読9時55分～10分間）

本校では、今年度より「朝の読書の時間」を設定している。昨年度までは期間限定で実施していたが、今年度より通年化した。そのねらいについては、ここでは触れないが、1年間の実施でそれなりの成果はあると思われる。しかし、やはりマンネリ化による問題点もあり、ぼうっとして読書しない生徒、宿題に追われる生徒、居眠りする生徒などがしだいに増えはじめる。

そこで、これも個人的取り組みであるが、NIE期間中、HR・朝読の時間を利用して、新聞記事を読ませることを試みた。連絡終了後、各新聞からピックアップした記事B4版1枚分の資料（こちらで別資料を追加したり、書きこむ場合あり）を配布して読ませる。その後、必要に応じて解説をする。時間がない場合は、その日の、世界史の授業で解説をする。ねらいは、やはり上述通りである。また、進路指導の面からも、小論文・作文・面接などに間接的にはあるが、役立つと考える。

2. 新聞の置き場所・整理方法

置き場所は、私が担任をしている、2年のHR教室である。各社ごとにわけて配置してある。生徒には、時間のあるときにはいつでも閲覧できるようにしてある。また、他クラスの生徒にも同様である。2ヶ月間だけであるので、それほどの量ではなく、また場所もとらないので、特に整理方法も考えなかった（次年度はそうはいかないかと思うが）。

教室で自分が読んだ記事が、翌日の、朝読の時間に配布する資料に掲載されていると、「これ、昨日読んだ」と、反応する生徒もいる。それなりに、活用している状況である。

3. 実践の内容

今年度の私のNIE実践期間は2ヶ月であるが、前述した通り、新聞記事の授業への利用は以前から実施している。そこで、ここでは今年度1年間を通しての実践例の中から、いくつかをピックアップする。

(1) 地理の授業における実践例

3年選択地理講座では、以下のように活用した。

[1] 新聞記事を単元授業の副教材的ポジションに据えて活用する方法。

[2] すでに学習した、あるいは今後学習予定の内容と関連する新聞記事をピックアップする方法。

[3] 世界の国々に関する新聞記事を、授業に関わらなくともピックアップする方法。いずれの場合も、

・ピックアップした国の位置、首都などを確認する。（「地図帳」利用）

・ピックアップした国の特徴をおさえる。（「データブックオブザワールド」利用）

・既習事項の場合は、復習をあわせて行う。

・[3] の場合には、細かな解説を加えて、一般的知識・教養の修得と国際的な視野・思考力を養う。

【例①】

単元「領土と国境」…日本の国境問題

【信濃毎日新聞 4/10(水)】

・竹島をめぐる日韓の対立を理解する。竹島の位置、歴史的背景、両国の主張などをおさえる。さらに、竹島以外の日本の領土問題や、国家の領域の学習に発展させる。

文科省の教科書検定

昨年認められた「李氏朝鮮」の記述を

「日韓」に詳細意見

朝鮮半島側の視点充実

日本の侵略を正当化する記述に韓国、中国が強く反発。外交問題に発展した「新しい歴史教科書をつくる会」主導の中学歴史教科書問題から一年。文部科学省が九月公表した高校教科書の検定結果は、日韓関係で詳細な意見を付けて記述の修正を求めるなど、韓国への配慮が強くなり、内容となった。

竹島記述など反発

韓国各紙「わい曲が波紋」

【ワウル9日共同】韓 問題への善及がないこと、韓国政府は九月、日本の満洲を強く批判し、要請を表明した。韓国共催のワウルカップ(W杯)サッカーを間近に控え、再修正要求など、厳しい対応は見送られたが、韓国各紙が十日付早版の一面トップで「わい曲が波紋」と報じているなど、メディアは強く反発しており、再び国民感情が悪化する恐れがある。

韓国政府は今後、対策を講ずる。韓国共催のワウルカップ(W杯)サッカーを間近に控え、再修正要求など、厳しい対応は見送られたが、韓国各紙が十日付早版の一面トップで「わい曲が波紋」と報じているなど、メディアは強く反発しており、再び国民感情が悪化する恐れがある。

「わい曲が波紋」と報じているなど、メディアは強く反発しており、再び国民感情が悪化する恐れがある。

韓国政府は今後、対策を講ずる。韓国共催のワウルカップ(W杯)サッカーを間近に控え、再修正要求など、厳しい対応は見送られたが、韓国各紙が十日付早版の一面トップで「わい曲が波紋」と報じているなど、メディアは強く反発しており、再び国民感情が悪化する恐れがある。

【例②】

「ベネズエラでクーデタ」

【信濃毎日新聞 4/14(日)・4/18(木)】

・ベネズエラで軍事クーデタが発生したが、失敗に終わった。2つの記事からそのことを学習する。クーデタの背景とともに、国の位置、データ、国名の由来などについておさえる。

暫定大統領が就任

ベネズエラ

「カル」1年以内に民政復帰

【カラカス13日共同】同僚は同日、暫定大統領に就任した。ベネズエラのチャベス前大統領を事実上のクーデターで辞任に追い込んだ。軍部首脳らは十二日、経団連のペドロ・カルモノを議長とする暫定政府を組織することを決定した。一九九九年の憲法を無効にし、国名を「ベネズエラ・ボリバル共和国」から「ベネズエラ共和国」に戻す。年未だに総選挙を実施し新国会が憲法制定の一年以内に大統領を選出する見込みである。

選挙実施し新国会が憲法制定の一年以内に大統領を選出する見込みである。

選挙実施し新国会が憲法制定の一年以内に大統領を選出する見込みである。

チャベス人気読み誤る

ベネズエラのクーデター失敗 軍首脳部、重なった「誤算」

【ワウル14日共同】ベネズエラで、軍首脳部が主導したチャベス大統領を事実上のクーデターで辞任に追い込んだ。クーデタは失敗に終わった。軍首脳部は、チャベス大統領の辞任を宣言した二日後、明の会見当時、ラスベガスで開かれた大統領令を打ち出した。新体制づくりを急いだ。しかし、国家警備隊も含め四軍の内裏はほぼほぼ、午後にはチャベス政権の閣僚たちが大統領府に集まり始めた。ラスベガスで開かれた大統領令は、午後三時、自ら後方へ向かう見込みである。



大統領チャベス。大塚(左)と、日野(右)が、十四日、ラスベガスで開かれた大統領令を打ち出した。

【例③】

単元「現代の国家と国家群」復習含む…東ティモールの独立

【信濃毎日新聞5/20(月)】

・東ティモール民主共和国の誕生を理解する。位置、歴史的背景、民族、宗教、独立の意義、今後の課題などについて学習する。そして、民族問題の学習へと発展させる。

ポルトガル語話せるのは10%

新たな国境に向け歩き出した東ティモールは、ポルトガル語と現地語のテト語を公用語に定めた。しかし、住民のわずかな多量程度しか話せないポルトガル語の公用語化に、住民は困惑と不満を隠さない。

ポルトガルの植民統制時代に教育を受け、対インドネシア独立運動を指導した四十代半ば以上の世代にはポルトガル語は共通語だが、インドネシア語で育った若者には、外国語。公用語問題が世代間の断絶につながる恐れもある。公用語問題は国境の断絶につながる恐れもある。現在、教室では主にインドネシア語だが、暫定政府は二〇一五年にはテト語とポルトガル語に限定する方針を表明、ポルトガルから約五千人の教師も派遣された。

住民に困惑と不満

ポルトガル語が話せるのは10%、学校長もポルトガル語が話せない、住民は困惑と不満を隠さない。

東ティモール独立

グスマン 寛容と和解訴
初代大統領

「ティリ19日共同声明」による約四半世紀の併合・統治を経て連年の暫定統治下にあった東ティモールが二十日午前零時（日本時間）念願の独立を達成、新国家「東ティモール民主共和国」として歩み始める。

【関連記事4・5面に】インドネシア東部に浮かぶ東ティモールの東半島は、約八百八十万人の小国で、二一世紀に誕生する初の国家で、独立闘争で荒廃した社会、経済の復興に取り組み。独立式典はティリ近郊で十九日夜、約十万人が参加して始まった。伝統の戦士姿の男たちを前に、長老が祝いの言葉を述べると、祝賀ムード一色になった。式典では、シャナナ・メルクス、事務総長、グスマン、任演説。国民に呼びかけ、国の繁栄と過去の悲劇を乗り越える決意を述べた。

【例④】

単元「民族の共生をめざして」…スリランカの内戦

【毎日新聞1/7(火)・中日新聞1/9(木)】

・民族の共生問題の例として、長年の内戦が解決に向かっていくスリランカを例にして学習する。国の位置、歴史、対立の背景などについておさえるとともに、多民族国家がかかえる課題について理解する。

「国境なき医師団日本」医療プログラム担当 眞戸 朋子さん

内戦が続くスリランカ。難民キャンプは、診療所が閉鎖し、二時間前より多くの人が並んでいた。重傷の子を抱いた親、戦闘に巻き込まれた遺体、生霊の必死な叫びが列なっていた。産婦人科医、国境なき医師団（NGO）の初日本人として一九九九年にスリランカに、九四年ホスマナ、二〇〇一年マリアム。一次病院のようだが組織化と、自分の可能性を生かせない。型通りに押し込む日本の雰囲気は疲れてきた。MSFを知った。政府の下請け的な非政府組織（NGO）も少なからずある。

2012

真戸は経験やさまざまな物を見方をもち、い中で、一弱立場の人に、像を絶する美情に「こんな目をつけ、貧困・紛争・災害地域に駆けつける「世界」の救済者のよう存在に憧れた。」「事は無様な活動だけ、貴重な経験や苦しみ、真戸の見方をもち、つづけて。素晴らしいことばかり、医師としての責任と、自分なりの責任をもちたい。」「現在は設立十年を迎えたMSF日本の医療プログラム担当で、人を派遣する立場に。何かの理由で医療から遠ざけられた人々は、すべてMSFの待合室の患者。その思いから、多くの日本人を送り出したいと新年早々奔走する。京都市出身。（所沢 新一郎）

和平方渉進むスリランカ内戦

スリランカ政府は従来、同国北東部を支配する解放のトラに對し、経済封鎖で孤立させた。その政策を続けてきた。それが、一解放のトラは、スリランカで対抗した。

だが、一時は三〇日の総選挙を経て、一解放のトラは、スリランカ政府に有利な選挙結果を収めた。一解放のトラは、スリランカ政府に有利な選挙結果を収めた。一解放のトラは、スリランカ政府に有利な選挙結果を収めた。

ぐり曲折も 主導権争い

一解放のトラも、主権回復の資金援助で武器調達に困難になり、戦況も不明確な状況に陥った。一少ない戦力での大きな戦果を挙げた。一解放のトラは、スリランカ政府に有利な選挙結果を収めた。

こうした中、政府と解放のトラは、昨年五月、ルウェーの仲介で停戦に合意し、和平方渉を進めてきた。ウタラマシンの首相は、今回の交渉に失敗すれば、もはや和平はない」と訴え、和平ムードを醸成、スカンディナヴィアやEUの支援を求めた。

【例⑤】

单元「さまざまな環境問題」総復習

【毎日新聞1/5(日)】

・学習してきた環境問題(地球温暖化・オゾン層破壊・酸性雨・砂漠化・放射能汚染など)の総まとめとして、記事を読み自分の考えを800字の小論文にまとめる課題学習。

工説

地球の温暖化を少しでも食い止めるようという京都議定書が多分、今年中に発効する。ロシアの批准が条件だが、07年12月の採択から発効までに実に6年もの歳月を要することになる。

先進国を中心に温室効果ガスの削減に本格的に取り組み始める。そんな中で最大の排出国である米国が議定書を離脱し、途上国は削減義務を負わない。大きな限界を背負っての門出となる。

国際社会の動きを横目に地球の温暖化は速度を増している。02年の世界の平均気温は観測史上、98年に次ぐ2番目の高さだった。各地の生態系は地球の異変をつけ、人々の「何か変だ」という思いは共通のものになりつつある。科学者の「素人に何が分かる」という懸念は薄じなくなってきた。

北極ではこの100年間に年平均気温が5度上がり、降水量も増した。南極では南極半島の温暖化傾向が著しく、陸上の氷床が海岸から張り出した棚氷の大崩壊が起

こり始めた。急激な変化に北極グマ、セイウチ、アザラシなどの生存が脅かされている。

国が沈んでしまう恐怖

海水温度が上がって各地のサンゴ礁でサンゴの死の白化現象が起きている。同様に貴重な環礁、塩水性湿地、マングローブなどの沿岸生態系にも被害が出始めた。

温暖化と海面上昇を深刻に受け止めるのは太平洋、インド洋、カリブ海などの島しょ国だ。沿岸部の被害は次第に大きくなり、「国そのものが沈んでしまふ」という恐怖からも逃れられない。

日本では年平均気温が100年間で約1度上がり、都市部では2度以上上昇した。桜の開花日は半世紀で5日早まり、昨年は全国的に最も早い記録を作った。昆虫はどんどん北上し、セアカゴケモ

など外国から日本に定着を果たしたクモや昆虫も少なくない。世界的に異常気象が目立つ。生物多様性が急速に失われている。「20年前後には地球の破局を肌で感じるだろう」と語る専門家もいる。実は環境省もそれに近い危機感を持っていた。専門家を集めてま

地球の異変つげる生態系

温暖化の脅威を見据えよう

なと外国から日本に定着を果たしたクモや昆虫も少なくない。世界的に異常気象が目立つ。生物多様性が急速に失われている。「20年前後には地球の破局を肌で感じるだろう」と語る専門家もいる。実は環境省もそれに近い危機感を持っていた。専門家を集めてま

活形態を一変させるであろう。しかも生態系などに影響を与えているのは気候変動だけではない。無秩序な森林伐採などの自然破壊や土地利用の変化、酸性雨、汚染物質の集積、移入種(外来種)の導入なども深くかかわっている。オゾン層破壊や世界的な人口増加などの影響も無視できなくなる。

ない。せめて温暖化防止では見える効果を上げたいが、そう簡単にはいかない。08年から12年までの間、東期間の先進国全体の温室効果ガスを90年比で5%削減することをうたった京都議定書全履行されたとしても、温暖化進展を止めることはできない。んのちよっとスードを鈍らせかけてある。離脱で、そのんのちよっと危ぶまれてい

これらの相乗効果によって大災害などが起り、世界の生態系はもとより、経済や人々の生活に計り知れない影響を及ぼす。途上国や飢えに苦しむ人に真っ先にわが国が削減義務を受け入れる努力も日本を中心に地道に続ける必要がある。そうした温暖化の緩和策と並んで、ある程度の温暖化は避け

とめた報告書「地球温暖化の日本への影響2001」には次のような警告が出てくる。

「温暖化に伴う」気候変動とその影響は確実に進行し、30年後には危険なレベルに達し、その後加速する。「気候変動は生態系、農業、社会基盤、人間健康などに多大な影響を与え、われわれの生活に深刻な脅威を受け止め、できる限り手をつけなければなら

【例⑥】

単元「民族と国家」総復習

【信濃毎日新聞1/6(月)・毎日新聞1/7(火)】

・学習してきた、民族をめぐるさまざまな問題についての総まとめとして、新聞記事を読んで、自分の考えを800字の小論文にまとめる課題学習。

テルアビブ

自爆テロ25人死亡

2件同時 PLO系組織が声明

【エルサレム海保真△イスラエルのテルアビブ中心街で5日夜、2件の同時自爆テロが起き、自爆犯2人を含め計25人が死亡、100人以上が負傷した。犠牲者のうち4人は外国人労働者だったという。パレスチナ解放機構(PLO)主流派フアタハ系の武装組織「アルアクサ殉教者団」が犯行声明を出した。イスラエル領内での自爆テロは昨年11月21日以来、03年に入ってから初めて。

これを受け、イスラエル軍は6日未明にかけ、動の自由を厳しく制限するなど新たな制敵策を決めた。また、イスラエル政府は主要閣議で、パレスチナ指導部高官の移動の自由を厳しく制限するなど新たな制敵策を決めた。

治安協議を開き、対応策を協議。イスラエル放送などによると、制敵策では9日にヨルダン川西岸ラマラで予定されるパレスチナの憲法決定機関「PLO」の開催を禁じたほか、フアラ英首相が提案し14日にロンドンで予定されるパレスチナ問題会議への自治政府高官らの出席を禁じた。

斜面

イスラエル第二の都市テルアビブは、地中海に面する海岸平野のほぼ中央に位置する。もともと丘がちな町のヤッファ郊外の農地だった。十九世紀ころからユダヤ人の入植で都市が生まれる。イスラエル建国の一九四八年からしばらく、首都ともされた。世界各地からユダヤ人が迎え入れられ急速に発展していく。代わりにはヤッファからは、九万人を超えるパレスチナ人が追い出された。ユダヤ人にとっては建国運動

ゆかりの地であり、パレスチナ人には恨みの地である。そのテルアビブで新年早々、多くの犠牲者を数える自爆テロが起きている。パレスチナ人の若者二人が、ほぼ同じ場所、同じ時刻に爆弾もろとも爆死した。巻き込まれた死者は、二十人を超える。けが人も百人以上に上る。外国人労働者が集まる場所でもあり、中国人やタイ人が含まれているらしい。イスラエルの圧倒的な軍事力によってパレスチナ人は、刻々と追い詰められていくばかりだ。自爆テロや射

殺覚悟の銃乱射が、今ではほとんど唯一の対抗手段といえる。もちろんそれとでも、無防備の一般市民を巻き添えにする。理屈は、あれこれではない。しかし、置かれた状況の厳しさには同情を抑え難い。生まれながら難民の苦勞を負った時、職業にも満足に就けない。将来に希望も抱けない。未来を預けられた居住者が、テロの温床としてイスラエル軍に破壊される。これまた理不尽の極みではないか。

右傾化は必至 イスラエル

【エルサレム海保真△イスラエルのテルアビブで5日、1カ月前ぶりにパレスチナ過激派の自爆テロが再発したこと、泥沼の衝突は今年も続きそうな展開となった。今月28日のイスラエル総選挙を前にしたテロ再発は、イスラエル世論の右傾化を促進し、シャロン首相率いる右派政治リクードを選挙で有利にするとの見方が強い。現在、国会第2党のリクードは総選挙での優勢が伝えられている。この情勢について、左派は、シャロン首相や側近がパレスチナのテロの脅威やイスラエルからのミサイル攻撃の可能性を公言することなどで世論を右傾化させ、国民の支持をつなぎ留めたいと指摘してきた。しかし、先週末に行われた各種世論調査では、リクードの比例代表候補者名簿作成にからむ現職

出禁止令などを繰り返して、先月は自爆テロが1件も起きなかった。しかし、パレスチナの過激派側はひそかにテロを敢行する機会をうかがっていたとみられる。アルアクサ殉教者団の声明によれば、実行犯2人は西岸ナブルス出身で、自宅をイスラエル軍に破壊された報復としてテロを行ったという、新たな犯行を予告している。だが、フアタハ幹部は犯行を否定しており、事件の背後にはイスラーム原理主義組織「イスラーム聖戦」が暗躍していると見方も浮上している。確かだ。このためミツナ党首は「イスラエルは治安政策を変えるべきだ」と主張し始めているが、国民が目を醒めるかどうかは定かでない。

米大統領「最も強い言葉で非難」

【ワシントン共同】ブッシュ米大統領は5日声明を発表し、イスラエルのテルアビブで同日起きた同時自爆テロについて「テロリストがまたもイスラエルを攻撃し、テルアビブの市民を殺傷した。この卑劣な行爲を最も強い言葉によって非難する」と激しく非難した。大統領はさらに「テロリストは妨害しようとしてくわんでいるが、米國は引き続き中東和平の実現に努力する」と和平に取組む強い決意を表明。その上でパレスチナ自治政府に対しテロ対策強化の努力を求めた。

(2) 世界史の授業における実践例

2年必修世界史(近現代史)では、副教材的ポジションとして新聞記事を利用しようと試みたが、学習単位と直接関わる内容の記事の選択が難しく、そのため学習するキーワードやキーパーソンが登場する記事を活用しての授業を展開した。

【例①】

単元「第1次世界大戦下の世界(アジア)」

【中日新聞1/14(火)】

・戦中の密約とパレスチナの混乱、民族対立について学習する。前述地理の【例⑥】の記事も用いて、現在も大きな国際的問題であることをしっかりおさえる。

また記事が、同年代の高校生の意見であることにも触れる。

(後日、【毎日新聞1/26(日)】…P・オトゥール氏にアカデミー賞名譽賞授与の記事を用いて、アラビアのロレンスについて復習。記事の掲載省略)

中島 広英 高校生18歳
(三重県鈴鹿市) う。やはり、国の問題を通り越し、心の問題を人の歴史について勉強しているのではないかと
ました。私は「ほくの神 思います。どちらかが柔
さま」(コレク・ボガエ らかいいんを持てば解決す
ビッチ書)という本を読 るはずで、平和のため
んでから、ユダヤ人問題 の戦争など絶対ありませ
について興味があ 人。自分の国の強
ったのですが、爽 さを願い合つて
際びんな態度を愛 っぽくばかげたこ
け、苦しんだのか とはありません
は知らなかったの ユダヤ人問題
で、知ったときは 「冬来りなば春
胸がとちも痛みました。 遺からじ」とい
このユダヤ人問題が統 言葉があります。冬が来
たことについては、昔はも うすくそ(また来てい
きな続き)今のパレスチ ず。い今この向こうに
ナ問題に発展していま 平和が見えます。平和的
ず。何十年の間になぜ な解決をしてほしい一き
戦いを繰り返されてきた こと期待されたユダヤ人
戦いを繰り返されてきた たちもそう望んでいるほ
ずです。

【例②】

単元「ロシア革命」の導入…日露戦争・第1次ロシア革命の復習

【朝日新聞1/17(金)】

・ロシアのロマノフ王朝崩壊から、ソ連成立とその発展までを学習するこの単元の導入として、日露戦争と第1次ロシア革命についての復習を行う。左の記事を活用する。記事中に、すでに辛亥革命の授業で学習した「孫文」が登場しているので、彼についても復習する。さらには、今後学習する「スターリン」・「ネルー」の名も出てくるので、彼らについても予習として教科書を確認しておさえておく。

さらには、ロシアの歴史の学習であるが、記事から朝鮮、中国、そして日本とも深く関連していること、過去の出来事というだけではなく、現在の国家間問題と深く関わっていることもおさえる。

発想 転換

日露戦争って何だった

一枚の絵がある。屈強なロシアの農民が、背が低くて狐目をした、黄色い顔の日本人兵士を殴りつけている。兵士は泣いている。

日露戦争の戦意高揚のため、当時の帝政ロシアで盛んに出版された風刺画のひとつ

だ。政府の検閲下で日本人は偏見を込めて貧弱に描かれるのが常だった。スターリン時代には日露戦争が日本の脅威を大いにおおる材料に使われた。第2次大戦の記憶は、いまなお日ロ両国民の間になだかまりを残している。

だが、日露戦争当時は「民衆には日本人への嫌悪感はいずれも強くなかった」と、

アジアの民族解放に大きな刺激となったことは事実だ。中国革命の指導者、孫文は「日本がロシアに勝ち、民族の独立という希望が生まれた」と語った。そうした側面を認めつつも、結局「帝国主義國の集団に新たな國を加えただけだ」と否定的に総括したのは、インド建國の父ネルーだ。歴史の多面性である。

日露戦争の主戦場となったのは朝鮮半島と中国東北郡だった。にもかかわらず、これまでの研究では中国と朝鮮半島の民衆の視点はほとんど抜け落ちていた。

広島市立大学のユリア・ミハイロフ教授は語る。むしろ日本兵の勇氣に感心した記録さえあるというのだ。

ソ連崩壊後、ロシアでは日露戦争の様々な新資料が発掘され、學者の研究も自由になった。彼女もそのひとりだ。

日露戦争を問い直し、教訓を21世紀に生かそうという国際的な試みが、来年の開戦100周年を前に進んでいる。

米国をはじめ各地で学会が予定され、研究成果の発表も始まっている。日本でも研究会が発足した。日ロ米中韓、フンメン、インドなどの學者が協力する。

日露戦争は20世紀最初の大戦争だった。近代日本を朝鮮の植民地支配、さらには中國侵略へと向かわせた転回点でもある。

だが、戦争の実像や影響の評価をめぐってはなお様々な見方がある。開戦の責任が重いのには日本かロシアか。日本が自衛のためにはやむをえず開戦したという理屈は成り立つのか否か。

【例③】

単元「ファシズム台頭～第2次世界大戦への道」…復習含む

【朝日新聞 2/16(日),17(月)・産業経済新聞 2/17(月)】

・記事はいずれも、イラク・北朝鮮問題に関するものであるが、過去の戦争についてもふれている。その中に授業で学習した「ヒトラー」・「ゲルニカ」・「ズデーテン」・「チェンバレン」・「宥和政策」が含まれている。記事の内容の理解とともに、第2次世界大戦前のファシズムの台頭と、それに対する英仏などの対応について復習する。

また、これから学習する「ドゴール」・「レジスタンス」も、記事中に出てくるので、これについてもおさえる。

第2次世界大戦（太平洋戦争）が“昔のこと”なのではなく、ほんの60年前の原爆も使用された大戦争であり、現在の国際関係と密接に関連していること、日本人としてしっかりと理解し考察しなくてはいけないことであることを、この単元での重点とする。

天声人語

「今夜、パリは世界で最も幸せな都市だ。パリ中が踊っている。44年8月25日の夜、そんな放送が米國に流れた。パリからその声を送ったCBSラジオ特派員のラリー・ルシユール氏が今月初め93歳で亡くなったことを知った▼ドイツ軍が脱出したあとのパリにドゴール將軍が入った25日は、パリ解放の日として記憶される。逆から見れば「パリ陥落」の日だった▼当時の朝日新聞は、ドイツ當局が26日に発表したとして「パリ遂に陥落す」と報じた。ドイツ軍はパリを反枢軸軍の手に委ねた。と。そのころの報道ではドゴール將軍のレジスタンス側を「仏叛軍」つまり反乱軍としていた。同じ出来事でも立場によって「ほぼ違ってくる」▼本紙特派員だった衣笠多喜男氏は14日にパリを脱出、その脱出記を本紙に掲載した。氏は後に著書で当時を振り返っている。パリ解放の放送を避難先で聞いて「わ

ずか数日間、おどろへき世界の変貌であった。私はさすがに胸うたれて、ラジオの前にはうすく来たまま、転回する歴史の音をきいた▼ドイツ支配下の母國を上空からしばしば眺めたのが作家のサンテグジュペリだった。その偵察飛行について「きわめて近いと同時に遠いフランス上空を数時間飛行する」と意味

産経抄

世界各地で反米、反戦の運動が盛り上がりつつある。と多くのメディアが伝えている。デモ行進や集会を全面的に支持するような形である。しかしそういう報道姿勢は、ひよっとするとサダム・フセインに誤ったメッセージを与えることになるだろう ▼「歴史は鏡である」と古人の言葉にあった。二十世紀を振り返っても、古い鏡はいくつもある。一九三〇年代、ヒトラーはチェコからスデーテン地方を危険な賭けで奪ったが、米英ソは事態を放置した。宥和政策をとったチェンバレンは帰国し

て「平和を守った」と國民に大歓迎された▼一九七〇年代、ベトナム反戦は流行ファッションになった。日本でも「ベ平連」の進歩的文化人がもてはやされた。そして解放戦線の本音も伝わった結果、ベトナム戦争は

定戦 一 装中 集

わう、胸が締めつけられるようななかの想い！」「『戦時の記録3』みずす書房)と。作家はパリ解放の1カ月ほど前、出撃したまま消息を絶っている▼過去の出来事は様々な角度から見直すことができる。いま進行しつつあることもまたそうしなければ、と思いつつ。

人文字で反戦

ロサンゼルス

「ロサンゼルス」中井大助「太平洋沿いの海岸で開かれた平和集会には数千人が参加、平和の象徴のハトの絵を描いたり、「Peace No War」(今、平和を)の文字に沿って人が並んだりし、反戦を訴えた」写真

真・A.P. パウエル米國務長官が5日に國連安保理に出席した際、國連本部ではじかれた「ゲルニカ」が布の主催者たちはこれに対して「海岸に並んだ人たちの顔を隠すことはできない」と抗議の意思を込めた。

ク問題をめぐって欧米は分裂寸前だが、國際關係を考えると善悪(道徳)のモノサシで計るのはナンセンスなのだ。たとえば仏独米英は間違っている意味がない。計るだけ一つ、何が國益にかなうか、できるか、できるべき重要な核恫喝への対本気な北の核をどう守る堅持以外に偽善的な

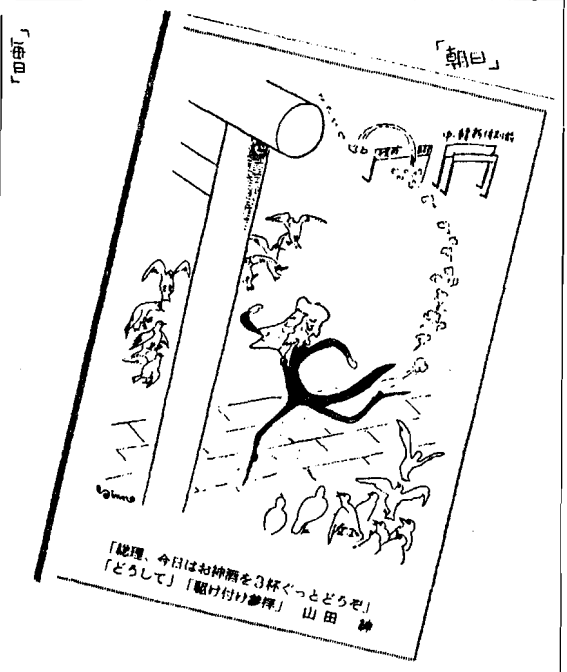
2003.2.17

(3) HR・朝の読書の時間における実践例

【例①】

【1/15(水)付各紙…朝日・毎日・日経・産経・読売・中日】

・昨年4月に引き続き、今年も首相が靖国神社を参拝した。これに関する各紙の記事をとりあげて、読み比べる。靖国神社とはどのようなものなのか、なぜ中国や韓国など近隣諸国も巻き込む大きな問題となるのか、といったことを理解するとともに、自分の考えも持てるようになることが、ねらいである。



首相靖国参拝

小泉純一郎首相が14日、今日初めて参拝した。靖国神社を参拝した。首相は「参拝の上では、この参拝は一年一度の参拝である」と述べた。参拝は、靖国神社を参拝した。参拝の上では、この参拝は一年一度の参拝である。参拝の上では、この参拝は一年一度の参拝である。

また思慮に欠ける行動だ

参拝は参拝だ、参拝だ、参拝だ。参拝の上では、この参拝は一年一度の参拝である。参拝の上では、この参拝は一年一度の参拝である。参拝の上では、この参拝は一年一度の参拝である。

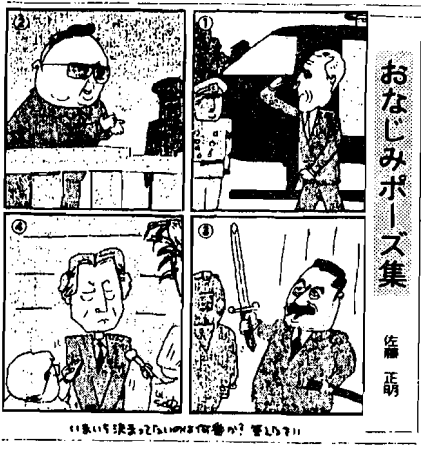
産経
評価するが明確な説明を
小泉純一郎首相が靖国神社を参拝した。首相は「参拝の上では、この参拝は一年一度の参拝である」と述べた。参拝の上では、この参拝は一年一度の参拝である。参拝の上では、この参拝は一年一度の参拝である。

「大物」米朝「抗議」

なぜこの時期に靖国参拝か
小泉純一郎首相が靖国神社を参拝した。首相は「参拝の上では、この参拝は一年一度の参拝である」と述べた。参拝の上では、この参拝は一年一度の参拝である。参拝の上では、この参拝は一年一度の参拝である。

強い不満と憤慨を表明

参拝は参拝だ、参拝だ、参拝だ。参拝の上では、この参拝は一年一度の参拝である。参拝の上では、この参拝は一年一度の参拝である。参拝の上では、この参拝は一年一度の参拝である。



読者手帳
政府の参拝は、参拝だ、参拝だ。参拝の上では、この参拝は一年一度の参拝である。参拝の上では、この参拝は一年一度の参拝である。参拝の上では、この参拝は一年一度の参拝である。